今まで残してきたパンの枚数を覚えているのか？

D―3班

1.序論

日本では、年間2550万トンの食品廃棄物等が出されており、そのうち食品ロスは 612万トンにも及ぶ。私たちの班では、学年ごとの給食の残量に着目し、年齢の増加と食品ロスに対する意識 に関係があるのかを調べた。

2.仮説

小学生は学年が上がっていくと、給食の残量は減少していくが、中学生になると残量は増加していく。

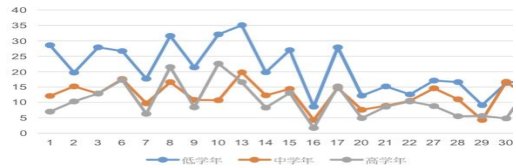
3.材料と方法

材料:小中学校から頂いた学年ごとの給食の残量のデータ

方法:主食や副菜などの残量を学年ごとにまとめ平均値をだし比較する。

4. 結果考察

◎小学校　低～高学年のグラフ
二つの月を合計した平均
【低16.8　中12.17　高10.47 (kg)】



◎中学校　1～3年生のグラフ
・平均
【1年9.8　2年12.9　3年12.8 (kg)】

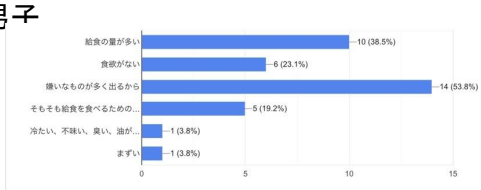
結果::平均値の通り、小学校は学年に比例して残量が減少していき、中学校は増加していく傾向にあることが分かった。

考察::小学生は先生や親による食の教育によって食べ残しをしないよう努めるが、　中学生になると、完食することへの意識が薄くなり食べ残しをする人が増えていくと考えられる。

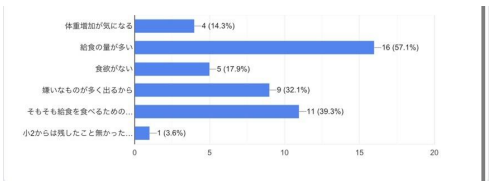
5.結果考察②

中学生を対象に給食を残す理由についてアンケートを取った。

男子



女子



6.まとめ・結論

探求を通して、中学生以降は食べ物を残すことを正当化する人が増えるため、給食の残量が増えてしまっている事が分かった。そこで深く掘り下げていくと、嫌いなものがあるからいいや、量多いから食べれなくてもしょうがないや、と言った理由をつけて正当化しているケースが多かった。従って、このポスターの上部にあるような食べ残し防止ステッカーによる啓発や食の大切さを再確認する教育などが必要なのではないだろうか。

参考文献

◯某小中学校の給食残量データ　◯消費者庁
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/education/
フェスティンガーの認知的不協和理論に 関する一考察
阿部敏哉
https://nebuta.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_action_common_download&item_id=249&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1&page_id=13&block_id=21